

[第 106 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

令和 2 年6月

NPO法人高島藤樹会

いつもありがとうございます。

本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

6月は、コロナ対策を十分にしておき第 105 回を開きました。京都・大津からも含め 10 名の参加でした。

最初に新型コロナウイルスについて、山中伸弥教授の「コロナとの闘いから共存へ」というご意見を紹介し、今後はこういう考え方が大事だと思うと述べました。

まず『中庸解』の概要をおさらいしてから、第 20 章の続きに入りました。今日の節は「九経の効(果)」をいうところです。

大意は、中庸の道(人間の生きるべき道)は太虚(大宇宙)に満ちているが、人々は欲などの惑いのためその道から離れている。そこで君主が(視・聴・言・貌・思)の五事を正してその道に戻れば、身が修まり中庸の道を得ること(修身)ができる。修身ができれば、天下国家を治める基本道が確立し、民皆仰いでこれに則り、賢者を尊んでこれを師友とすれば、君主はその助けによって道理を明らかにし、…周辺から順に天下が治まっていく。

そのことが現代にも通用するかについて、「致知」に連載された「ドラッカーの教え」で説明しました。古来、統治のためには、「機能」と「尊敬心」が重視されてきたが、近年は「機能」に多く焦点が当てられ「尊敬心」の部分が大きく欠けている。だが「尊敬心」が肝要である。尊敬心は真摯さ、誠実さのこと。それを得るためには自分の内面にある善きものを磨き出すことである。これは上記の「中庸の道」に通じると思います。ドラッカーはさらに政治においては、対立の「バランスを取る」のではなく、「調和」が大事である。「調和」とは、一方の利益が他方の利益でもあるという分野が一つでもあれば可能になる、その共通の利益を基盤に協力が行われる、と述べています。今の分断・対立が続く世界や経済社会において大変重要な視点だと思います。そしてその根底には利他の精神があると思います。世界のリーダーたちがこうあってほしいものです。

フリートーキング、アンケートでは、「藤樹先生の教えを現代の課題に適用して学べるのが嬉しい」、「自分の内面にある良さを隠してしまっていることがまだまだ多いと思う」、「コロナと共存しなければならぬ新しい時代だからこそ、この塾で学ぶ意義が一層高まると思う」などの意見を頂きました。

学ぶは愉^{たの}し！あなたも本塾に参加されませんか。

■ 日 時 令和 2年 7月4日(土) 15時～17時

■ 場 所 安曇川公民館(高島市安曇川町田中89)

■ テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」

テキスト 中江藤樹著・西晋一郎通訳『中庸解・通釈』第 20 章 p.259～

塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

■ 参加費 無料